

ランチョンセミナー

がんの補完代替医療における薬用植物タベブイア・アベラネダエ (通称:タヒボ) から抽出された「NQ801」の臨床的検討

平田 章二

平田口腔顎顔面外科 腫瘍内科 がんヴィレッジ札幌

近年、がん治療において、西洋医学のみならず、サプリメントや補完代替医療を併用したがん治療が注目されている。なかでも、南米ブラジル・マゾン川流域に生育する薬用植物タベブイア・アベラネダエ（通称:タヒボ）から分離・抽出された機能性成分「NQ801」は、癌や生活習慣病に対しての有用性を示す数多くの研究結果が報告されている。

「NQ801」は、タベブイア・アベラネダエ（以降 TA と記述）の樹皮（韌皮部）に含有される天然の植物色素ナフトキノンの一種で、とくに抗がん作用が注目されており、がん細胞に対する①直接作用（アポトーシス作用）と②間接作用（免疫賦活作用）、そして③補助作用（抗酸化作用、鎮痛・鎮静作用）が研究・報告されている。

そこで今回、当院で「NQ801」成分を含有する TA エキス末（樹皮を熱水抽出したエキスのスプレードライ加工品）を使用する機会を得たので、「NQ801」が補完代替医療にもたらす意義と役割について、臨床的な検討を行った。

方法は、がんの補完代替医療を目的に、①術前、②術後、そして③進行がん患者（緩和医療）に、TA エキス末と最近開発された TA 強化エキスを末を飲用させ、その臨床効果を調べた。TA 強化エキスを末は、TA エキスに「NQ801」フラクション分画を添加し、「NQ801」の含有量が6倍となるよう強化したエキスを末品である。

その結果、TA エキス末の術前（抗腫瘍効果：病理学的検索）、術後（免疫増加による再発転移予防）の使用意義は大きいと思われた。進行がん患者においても緩和医療や Palliative Therapy の一つとして、副作用を軽減しながら長期間の抗がん剤治療を可能にする役割も示唆された（腫瘍との共存）。また、今回使用した両エキスを末を比べると、TA 強化エキスを末の方がより抗腫瘍効果が見られ、Dose dependence 性も確認された。

以上より、有用成分「NQ801」のがんの補完代替医療における使用意義は大きく、その役割も臨床研究が進めばさらに増えるものと思われる。今後各方面で同様の臨床研究が実施されることを期待したい。

平田章二 プロフィール

1958年釧路市生まれ。

学習院中等科、高等科、神奈川歯科大学、東京医科歯科大学を経て、埼玉県立がんセンター。ドイツ **Bezirkskrankenhauses Cottbus**, ケルン大学医学部顎顔面外科留学(1987-89年; 腫瘍外科グループ)。札幌医科大学。東札幌病院口腔顎顔面外科部長。2006年12月25日、当院開設。

現在、口腔顎顔面部領域の癌を中心に、「がん統合医療」と、ホスピスケアに携わっている。

医学博士

共催：タヒボジャパン株式会社